



## アドビシステムズ株式会社が 電子文書の作成・管理ツールの最新版 Adobe Acrobat 6.0 日本語版を発表

対象顧客層ごとに3製品、Adobe Acrobat 6.0 Professional 日本語版、  
Adobe Acrobat 6.0 Standard 日本語版、Adobe Acrobat Elements 日本語版  
に分けることにより、幅広いニーズに対応  
デスクトップにおけるビジネス文書プロセスの可能性を拡大

### 【2003年5月15日】

アドビシステムズ株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:石井 幹)は、本日、電子文書の作成・管理ツール、Adobe® Acrobat® の最新版「Adobe Acrobat (アドビ アクロバット) 6.0 日本語版」を発表しました。Acrobat 6.0 は、1) ビジネス、エンジニアリング、クリエイティブのプロフェッショナル、2) 一般ビジネスユーザ、3) PDF 生成だけを目的に Acrobat を利用したい企業、にターゲットを分け、それぞれのニーズに合わせて3製品、「Adobe Acrobat 6.0 Professional 日本語版」、「Adobe Acrobat 6.0 Standard 日本語版」および「Adobe Acrobat Elements 日本語版」として提供します。

Acrobat 6.0 は、信頼性の高い電子文書配布形式のデファクトスタンダードとなっている Adobe PDF (Portable Document Format) を利用して、ビジネスの現場からエンジニアやクリエイティブのプロフェッショナルにいたる幅広いユーザが電子文書を効率的に作成、共有、レビューそしてアーカイブすることを可能にします。

Adobe Acrobat 6.0 Professional 日本語版および Adobe Acrobat 6.0 Standard 日本語版は、Windows® 版、Macintosh® 版ともにアドビストア (<http://www.adobe.co.jp/store/>) および全国のアドビ製品取扱い会社を通じて2003年7月4日より販売されます。なお、アドビストアでは本日より予約受付を開始します。Adobe Acrobat Elements 日本語版はライセンス販売のみの取り扱いとなっており、全国のアドビ製品取扱い会社を通じて2003年5月16日(金)より販売を開始します。

また、Acrobat の最新版の発表に伴い、Web 等を通じて無償で提供している PDF 表示・印刷ツールである Adobe Acrobat Reader® も最新版となり、新たに「Adobe Reader® 6.0」と名称変更します。Adobe Reader 6.0 は、2003年6月中旬よりアドビシステムズのウェブサイト (<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readermain.html>) からの無償ダウンロードを開始します。最新版である Adobe Reader 6.0 では、Flash ムービー、QuickTime、MP3、WMF (Windows Meta File) などのマルチメディアコンテンツを埋め込んだ PDF を閲覧することができます。

### Adobe Acrobat 6.0 Standard 日本語版

Acrobat 6.0 Standard は、ビジネスユーザのために、Adobe PDF ファイルを作成したり、複数の人が PDF 上で共同作業をするための使いやすいツールを提供します。

今バージョンでは、Microsoft® Office との連携を強化しており、ビジネスユーザは Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint® などで作成された文書を、右

クリックで簡単に Adobe PDF に変換できます。また、複数の異なるアプリケーションから作成された文書を選択して右クリックで、一度にまとめてひとつの Adobe PDF に変換できます（右クリックによる PDF 変換は Windows のみの機能です）。ひとつに束ねた PDF には新たにヘッダ／フッタをつけたり、透かし文字を入れることができます。Word や Excel から作成した Adobe PDF は、ほぼレイアウトを維持したまま、それぞれ Word、Excel に戻すことができます。その際、Adobe PDF に入力した注釈を Word ではコメントとして残すことができます。また、Internet Explorer に PDF 作成ボタンが付けられ、このボタンをクリックするだけで、表示されている Web ページを、リンクを保持したまま Adobe PDF に変換できます。さらに、Flash ムービー、QuickTime、MP3、WMF（Windows Meta File）などのマルチメディアコンテンツを PDF に埋め込み、再生することができます。

さらに、Adobe PDF 上での共同作業を、より簡単に、効率的に行うことができます。新たに搭載された「レビュートラッカー」機能によって、電子メールまたは Windows 環境では Web ブラウザを介し、複数の関係者とのレビュー（校正やチェック）のやり取りを自動的に整理、管理することができます。また、注釈のやり取りも軽いファイルで行えます。戻ってきた注釈は、Word XP の場合、新たに手入力することなく Word に戻すことができるため、入力ミスがなくなり、業務の効率化を図ることができます。

### **Adobe Acrobat 6.0 Professional 日本語版**

Acrobat 6.0 Professional は、上述の Acrobat 6.0 Standard のすべての機能を備えており、あらゆる分野のビジネスプロフェッショナルに強力なツールを提供するとともに、エンジニアリングとクリエイティブプロフェッショナルのワークフローを考慮した特別な機能も備えています。

エンジニアリングプロフェッショナル向けには、Autodesk® AutoCAD®、Microsoft Visio®、Microsoft Project といった専門分野のアプリケーションからワンクリックで Adobe PDF を作成する機能を備えています。Autodesk AutoCAD と Visio で作成されたファイルは Adobe PDF への変換後もレイヤーを保持します。また、各種標準規格の大判用紙サイズをサポートするため、CAD アプリケーションから実際の用紙サイズの Adobe PDF へ変換できます。

大成建設株式会社 設計本部 IT グループ シニア・アーキテクト 猪里 孝司氏は、「大成建設では、設計図書、申請文書、契約書などさまざま書類の共有・配布・保管に PDF を利用し、業務プロセスの効率化を実現しています。Acrobat 6.0 では、建設関係でよく使われている CAD ソフトウェアからワンクリックで PDF を作成でき、またレイヤー情報の保持も可能になるなど、CAD データとの親和性が向上していますので、Acrobat 6.0 により、更に業務が効率化されることを期待しています」と述べています。

株式会社 日立製作所 電力・電機グループ 原子力事業部 企画本部 事業企画部 情報技術センター 大政 良昭氏は、「日立・原子力事業部では、1998 年から、技術文書・図面の PDF 管理・WEB 共有を実施し、情報伝達を瞬時に行えるようになりました。弊社は、事業所や企業間で技術文書・図面をレビューすることが多く、製造業向けに強化されたオンライン注釈機能によるエンジニアリングコラボレーション実現に期待を寄せています。Acrobat でレビューを行うことにより、業務品質・業務効率の向上と共に、技術・組織・人の財産化を図れるところがすばらしいと思います」と述べています。

クリエイティブプロフェッショナル向けには、PDF/X (ISO 15930 として標準化された電子送稿の世界標準) に準拠し、PostScript レベルの互換性の検証を可能にしたプリフライト機能を備え、プレビューツールが適切な出力を保証します。Adobe PDF ファイルをプリフライトし、そのレポートと共に入稿することで、確実に出力できるデータと共に文書に関する重要な情報を印刷所や出力サービスに渡すことができます。Acrobat 6.0 Professional には、色分解のプレビューと透明部分の分割・統合のプレビュー機能が含まれています。クリエイティブプロフェッショナルは、色分解版を表示・印刷し、裁ち落としやトンボを指定できます。また、Japan Color 2001 Coated(コート紙用)および Uncoated (上質紙用)、さらに Japan Web Coated (日本雑誌協会の雑誌広告基準カラーをベースにアドビが開発したカラープロファイル) など、日本の印刷向けのカラープロファイルを搭載しています。

### **Adobe Acrobat Elements 日本語版**

Acrobat Elements は、Adobe PDF の生成に特化した製品で、Acrobat を大量導入する企業を対象にしています。Windows ユーザは、Acrobat Elements を使用して、容易に文書を Adobe PDF ファイルに変換しビジネス文書を多様なハードウェアとソフトウェアプラットフォーム間で配布することができます。Adobe PDF 文書は、Office 文書を右クリックするか、Microsoft Office アプリケーション内の作成ボタンをクリックすることで作成できます。

### **Adobe Reader 6.0 日本語版**

Adobe PDF ファイルを表示、印刷する無償のソフトウェアです。これまで Acrobat Reader として配布されてきましたが、現在 Adobe PDF は Acrobat 以外にも Adobe Photoshop® や Adobe Illustrator®, Adobe InDesign® などのアプリケーションで作成できるため、Adobe Reader として名称変更しました。Adobe Reader 6.0 では、新たに eBook 閲覧、Adobe Photoshop Album™ のスライドショーや電子カードの表示などができるようになりました。また、先日発表した Document Server for Reader Extensions を使って埋め込まれた電子署名や記入済みフォームを保存したり、記入されたデータを送信するといった、電子フォームや電子ファイルを効率よく処理するための機能も備えています。Acrobat Reader (旧名称) は、世界中ですでに約 5 億本がダウンロードされています。

なお、5月20日～23日の4日間、東京ビッグサイトで開催の「ビジネスショー TOKYO 2003」、および併催の「自治体総合フェア」(会期は5月21日～23日)にそれぞれブースを出展し、本日発表の Adobe Acrobat 6.0 をご紹介します。詳細は以下の URL をご参照下さい。

<http://www.adobe.co.jp/events/main.html>

Adobe Acrobat 6.0 日本語版の詳細情報については以下の URL をご参照ください。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/main.html>

**価格（アドビストア提供価格、消費税、送料別）**

**Adobe Acrobat 6.0 Professional 日本語版（Windows 版 /Macintosh 版）**

- 通常版 54,800 円
- アップグレード版※ 19,500 円

**Adobe Acrobat 6.0 Standard 日本語版（Windows 版 /Macintosh 版）**

- 通常版 34,800 円
- アップグレード版※ 12,500 円

※ アップグレード版の対象は Acrobat 4.0 および 5.0 日本語版ユーザです。

※ 2003 年 5 月 15 日以降 Acrobat 5.0 日本語版をアドビストアおよび全国のアドビ製品取り扱い会社にてご購入の場合は、無償で Adobe Acrobat 6.0 Standard 日本語版にアップグレードできます。対象者は、8 月 14 日までの手続きが必要です。

**Adobe Acrobat Elements 日本語版（Windows 版）**

ライセンス販売のみ（1000 本以上）

**アドビ システムズ社について**

アドビ システムズ社は、1982 年に創立された、米国カリフォルニア州サンノゼに本社をおくソフトウェア会社です。これまで、法人ユーザおよびクリエイター向けに様々なソフトウェアを提供し、ネットワークパブリッシングを推進してきました。それらの製品は、豊かな視覚効果にあふれ、魅力的で、信頼度の高いコンテンツの制作、管理、配信を可能にします。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。